

# 教育研究業績書

2018年11月08日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：谷口 俊恵

研究分野	研究内容のキーワード
精神看護学	薬物依存症者 家族
学位	最終学歴
修士（看護学）	大阪市立大学大学院看護学研究科前期博士課程修了 立命館大学大学院先端総合学術研究科一貫制博士課程在籍中

## 教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 精神看護学Ⅱ	2017年4月～7月	「精神看護学Ⅱ」は、精神看護を実践するための具体的な知識と技術を学び、精神疾患や障害を持つ人に対する看護アセスメントの考え方を身につけることを目的とする科目であるが、科目責任者が狙いとする学習効果が十分にもたらされるように演習にかかわった。特に、事例展開では、学生が提出する課題をひとつひとつ丁寧に見ることにより、どんなところでつまづいているのかを知り、アセスメントや看護の視点のコツのつかみ方など、学生の思考や理解をサポートする指導を個別に行った。また、精神科における身体ケアの講義、身体拘束の演習では、主担当として授業を行った。
2. 精神看護学実習	2017年10月～現在	精神科病棟および地域における精神障害者施設でのかわりを通して、精神疾患・傷害を持つ人の抱える生活上の困難やその人の回復に必要な支援を考えることのできる実習となるよう、実習開始前に実習施設と十分な調整をした。多くの学生にとって、この「精神看護学実習」が精神疾患・傷害を持つ人に初めて出会う場となるのだが、精神疾患・傷害に対する偏見が世間一般に未だあるなか、精神科病棟に足を踏み入れることに不安や恐怖を感じている学生は少なくない。そこで、率直な思いを自由に打ち明けられる場を設け、困っていることはいつでも相談できる雰囲気大切に、学生が安心して実習に臨める環境を作り、適時のサポートができるよう努めている。また、この実習では、対象を理解するとともに、自分自身を理解することを実習の目標のひとつとしている。自分に向き合うことは決して容易ではなく、苦しさや痛みを伴うものであるが、学生の個性に応じたかわりで学びが深まるよう、実習指導者とも連携を図っている。
3. 初期演習（精神看護学分野紹介）	2016年11月	1年生の「初期演習」において、精神看護学でこれから学んでいくことを分野の教員3名でそれぞれ分担し、紹介した。そのなかで私が伝えたのは、看護の対象となる精神疾患・障害を持つ人が地域の中で生活する姿、回復のイメージだったのだが、TVの映像を取り入れたり、自身が取り組んでいる、依存症者の回復支援での活動の一場面の写真を用いたり、日常生活ではあまり接することのない精神疾患・障害を持つ人やその回復がイメージできるように工夫をした。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 「精神科における身体ケア」（精神看護学Ⅱ）	2017年6月	精神科看護においては、抗精神病薬が身体に及ぼす副作用や高齢化に伴う身体疾患との重複など、ころだけではなく身体も観察できる能力が求められる。抗精神病薬の副作用については「精神看護学Ⅰ」ですでに学習したところであり、その内容を復習しつつ、それが演習の事例と関連付けて考えられ、また、実習で使える資料となるように、ポイントを整理した授業スライドおよび配布資料を作成した。
2. 精神看護学実習オリエンテーション資料	2017年10月	精神看護学実習では、5つの病院と10か所の精神障害者通所施設の計15施設を使用する。1期生の実習が開始するにあたり、実習施設への入り方、一日の流れのほか、実習にかんする諸注意事項などを細やかに示した、実習オリエンテーション資料を施設ごとに協同で作成した。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 2017年度前期「より良い授業の取り組み」表彰	2017年9月	「精神看護学Ⅱ」の授業の取り組みが、日々の教育活動での授業改善につながる、より良い授業方法の工夫と実践を行うものであったと、学長より表彰された。この授業は心光准教授を科目責任者とし、實田教授、麻生助教の4名全員が担当したのだが、この授業の内容は実践につながる重要なものであり、その取り組みが評価されたことは、今後の教育活動の大きな刺激となった。
2. こころのケア論	2014年1月／2015年1月	他大学における、精神看護学の導入となる「こころのケア論」の授業で、アディクション（嗜癖）について考える1コマを担当した。「わかっているけどやめられない」アディクションが実は身近な問題であることや、メンタ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
3. ファースト基礎実習 I	2013年7月／2014年7月	ルヘルスと深い関連があることなどをTVや映画を題材に用い、わかりやすく伝えられるように工夫をした。
4. まちの保健室実習	2013年5月～2014年10月	他大学における「ファースト基礎実習 I」で、2年生1グループを担当し、初めての病棟実習に向けての看護技術演習や事前学習および臨地実習での指導を行った。
5. 精神看護学Ⅱおよび精神看護学実習	2013年4月～2015年3月	他大学における「まちの保健室実習」で、2年生1グループを担当し、まちの保健室の利用者を行うバイタル測定技術指導、利用者の居住する地域についての調べ学習や健康教室の企画・実施にあたっての指導を行った。
<b>4 その他</b>		
1. 臨地実習委員	2017年7月～現在	育児休暇中の准教授に代わって、精神看護学実習にかんする窓口として、実習施設との調整などを行っている。
2. 看護師国家試験対策担当	2017年5月～現在	看護学部1期生全員が看護師国家試験に合格できるよう、昼休みにミニ講義を行ったり、ひとりではなかなか勉強が進まない学生に対して個別面談・指導を行ったりしている。また、模擬試験の受験指導や返却も担当している。
3. 学生委員	2016年5月～現在	学生と教員、あるいは、異学年での学生同士の交流が深められるよう、学生幹事懇談会や学生交流会を企画・実施した。また、2017年度は、5月の体育祭で応援合戦に参加する1年生の練習にかかわったり、丹嶺宿泊研修に同行し、1年生担任の補助を務めたりした。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 看護師免許	2005年4月8日	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 兵庫県看護協会主催 再就業支援研修会	2016年9月	兵庫県看護協会主催の再就業支援研修会にて、再就業を考えている未就業者を対象に看護技術の基礎および身体アセスメントの演習を担当した。
2. Freedom 薬物依存ABCラウンジ（家族教室）担当	2015年～現在	薬物依存症からの回復を支援する民間団体で、月に1回、家族教室を担当している。
3. 園田学園女子大学人間健康学部人間看護学科助手	2013年4月～2015年3月	精神看護学領域
<b>4 その他</b>		
1. 第2回リカバリーパレードin関西 実行委員	2017年9月	
2. 第1回リカバリーパレードin関西 実行委員	2016年9月	
3. 拠点型・出張型まちの保健室ボランティア	2013年～2015年	
4. Freedomボランティア	2013年～現在	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
<b>2 学位論文</b>				
1. 薬物依存症者の親たちの困難感とその変化の要因—家族の語りを通して	単	2013年3月	大阪市立大学大学院看護学研究科	
<b>3 学術論文</b>				
1. 薬物依存症者の親たちの困難感—自助グループにつながった親たちの語りより（査読付）	単	2016年3月	CoreEthics Vol.12, pp.197-207	薬物依存症者の回復において、家族の担う役割が注目されている。だが、家族自身に対する支援は十分に検討されていない。そこで本研究では、家族支援のあり方への示唆を得るため、家族がこれまでに体験した困難感についてインタビューを行った。対象となった5名の家族の語りには、まず薬物依存症者にかんする困難感があった。それらが自助グループでの体験を転機に改善していく一方で、我が子との距離の取り方の難しさや、薬物依存症の世間からの理解されなさといった新たな困難感が語られるようになっていた。疾患理解を促し、共依存を改めさせることは、家族教室などの教育的介入が狙いとするところであるが、距離を取りながらも薬物依存症という病気を持つ我が子の回復に親としてどのようにかわるのか、依存症者との関係性への理解と支持が家族支援の視点として不可欠である。

その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. The Model of Emotional Support for Professionals in Substance Use Treatment from the Results of the Interview Studies on Nursing in the USA and Japan	共	2017年10月	Transcultural Nursing Society 43rd Annual Conference, LA, USA	Minori TAKARADA, Nahoko NISHIZAWA, Satomi TAKAMA, Keiko TAKITA, <u>Toshie TANIGUCHI</u>
2. Qualitative research on the changes among nursing professionals in substance use treatment	共	2016年3月	19th EAFONS, Chiba, Japan	Minori TAKARADA, Nahoko NISHIZAWA, Satomi TAKAMA, Keiko TAKITA, <u>Toshie TANIGUCHI</u>
3. 地域で生活する精神障害者の歯科の現状と課題	共	2015年9月	第23回日本介護福祉学会	大川直美、野村慶雄、中村陽子、谷口俊恵
4. 薬物依存症者の親たちの困難感とその変化の要因—家族の語りを通して	単	2013年6月	日本精神保健看護学会 第23回学術集会	
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. こころに残ったカウントダウン—NAコンベンション	単	2017年9月	FreedomニュースNo. 122	
2. 関西でもリカバリーパレード	単	2016年7月	FreedomニュースNo. 116	
3. リカバリーパレードは始まって、続く	単	2016年12月	FreedomニュースNo. 118	
6. 研究費の取得状況				
1. 法心理・司法臨床研究会	共	2017年7月～	立命館大学大学院先端総合学術研究科院生プロジェクト助成金	佐藤伸彦（代表）ほか9名 近年、再犯者率の増加が問題となっており、社会内処遇のあり方について様々な領域の専門家が検討をしているが、実践と理論の乖離や問題意識のずれが生じている現状がある。本研究会の課題は、それを解消するべく、共役可能性を探ることである。
2. アジアの精神障害者の自助活動研究プロジェクト	共	2017年7月～	立命館大学大学院先端総合学術研究科院生プロジェクト助成金	伊東香純（代表）ほか3名 アジアには、今もなお、コミュニティの中で檻に閉じ込められたままの生活を強いられている精神障害者がいる。本研究会では、精神障害者の自助活動のリーダーを育てるための教育の構造化を図ることを目的としている。
3. アディクション問題にかかわる看護職者支援モデルに基づく支援プログラムの開発	共	2017年～	基盤研究C	研究代表者：竇田穂 研究協力者として、支援プログラム運営にかかわる。
4. アディクション問題にかかわる看護職者支援モデルの試案作成	共	2013年～2015年	基盤研究C	研究代表者：竇田穂 研究協力者として、データ収集・分析・研究資料和訳を担当。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1. 2016年9月	第15回日本アディクション看護学会学術集会 事務局担当
2. 2016年10月	第27回日本嗜癮行動学会京都大会 企画運営委員
3. 2016年～現在	日本アディクション看護学会 会員
4. 2016年～現在	日本看護科学学会 会員
5. 2016年～現在	京都の女性の依存症者の回復を支援する会 運営委員
6. 2013年～現在	日本精神保健看護学会 会員
7. 2013年～現在	日本集団精神療法学会 会員